報告月日　令和 8 年　5 月　11 日
報告者　兼子　美穂

地域医療支援病院運営委員会および地域協議会 議 事 録

開催月日	令和 8 年　5 月　7 日（木）　18 時 30 分～19 時 00 分		
開催場所	JCHO 北海道病院　講堂		
委員長	寺本　信先生	事務局	総合支援センター：兼子
委員出席者 （敬称略）	〔外部委員〕 寺本　信　（札幌市医師会豊平支部　副支部長） 家里　琴絵　（豊平区役所保健センター　札幌市豊平区保健福祉部長） 佐々木　泉顕　（弁護士法人　佐々木総合法律事務所） 佐藤　恵　（腎臓内科めぐみクリニック　院長） 中川　大輔　（札幌薬剤師会　豊平・清田支部長） 〔当病院職員〕 古家　乾　（JCHO 北海道病院　病院長） 数井　啓藏　（JCHO 北海道病院　副院長兼総合支援センター長） 長　和俊　（JCHO 北海道病院　副院長兼周産期医療センター長） 長井　桂　（JCHO 北海道病院　副院長兼呼吸器内科診療部長） 高田　弘樹　（JCHO 北海道病院　事務部長） 沓澤　佳代子（JCHO 北海道病院　看護部長）		
委員欠席者 （敬称略）	〔外部委員〕 向　俊孝　（札幌市民政委員児童委員協議会　理事）		
要旨	1.　地域医療支援病院実績報告 1）　紹介率・逆紹介率について 2025 年度の紹介患者数はやや減少も紹介率は昨年と同程度。 逆紹介率は前年より増加。今後も治療が落ち着いた患者の逆紹介を推進する。 2）　救急搬送数 2025 年度搬送受け入れ 2000 件を超えた。今後も救急医療を必要とする患者を積極的に受け入れていく。 3）　共同利用実績 2025 年度 CT 検査依頼が減少。MRI は近隣から依頼も多く利用数を伸ばした。 （質問）CT 利用が増えないのはなぜか →月・木限定が一因。今年度近隣医療機関で CT 装置の入れ替え予定あるため、検査協力して CT 利用を伸ばしたい。 4）　手術・分娩・内視鏡実績 2025 年度手術総数は減少も、ダヴィンチは順調に手術実績を伸ばしている。 分娩件数は前年と同程度。2026 年度も総合病院での管理が必要な妊婦の受け入れを継続する。アブレーション、PCI も順調に実績を伸ばすことができた。 内視鏡は消化器内科が積極的に紹介を受け入れた結果増加を続けている。 5）　地域の医療従事者に向けた研修実績		

	2025 年度は 15 件の実績となった。 6）　地域住民に向けた研修実績報告 がん患者向けのイベントを定期開催。患者家族が心配なことを話せるように今後も取り組みを継続する。 地域講演会は、医師・メディカルスタッフを講師として年 4 回の実績となった。 （質問）がんサロンの参加人数はどのくらいか？ →2-3 名程度の参加。日頃から悩んでいる方や家族の相談が多い。外来化学療法中の患者も多数いるので相談できる場として活動を継続していく。 2.　患者満足度調査 病院（外来・入院）と附属老健（通所・入所）それぞれで実施。 入院患者からは、食事や療養環境について意見あり、随時対応していく。 外来患者からは待ち時間の評価が低いが、自動精算機の導入と採血時間短縮の取り組みを実施し待ち時間改善につながった。外来 Wi-Fi も設置し待ち時間の有効活用に繋げたい。老健は通所・入所共に高い評価だった。 3.　その他 1）　第 1 回 JCHO 北海道病院連携医大会開催報告 2 月連携医の先生方と当院医師の交流の場として開催。特別講演、意見交換会など有意義な会となった。今後も顔の見える連携強化を図る。 2）　医療 DX に向けた取り組み ・5 月に向けて AI 問診システム導入予定。初診カルテ作成の時間短縮や紹介状等のテキスト化、音声入力による診療録作成など整備を進めていく。 （質問）音声入力の精度はどのくらいか？ →会話内容を文字起こししてカルテ入力できるよう開発している。周辺環境の影響を受けることや個人情報の取り扱いが課題。次回対面委員会時に経過報告する。 ・スマートベッド導入 バイタルサイン入力の簡略化、ピクトグラム表示などが可能。睡眠状況把握のため「眠りスキャン」を試験運用中。看護ケアに活かしていく。